



あかね園を支える保護者の活動



～平成の終わりに 令和の始まりに～



あかね園保護者の活動に、「ボランティア活動」があります。あかね園開所前の約30年前から続く活動です。

あかね園は、親達が「障害があっても働かせたい」と願って作った施設です。当初から「自分達でできるだけのことをする。その上で皆様に支援をお願いする」という信念がありました。そこで、まず資金作りのために親達が手作りの品物を作り販売したのが活動の始まりです。その後も代々その信念を引き継ぎ、「私達の施設は私達の手で支える」という姿勢が根底にあります。

現在のボランティア活動の柱も手作り品の作成、そして販売です。曜日ごとの班に分かれ、各班で特色ある製品を作り、あかね園バザーや土日に催される近隣のイベント会場で販売しています。バザーには、普段はボランティア活動に参加の難しい方も都合をつけて参加頂き、一致団結して取り組んでいます。

ボランティア活動は任意の活動ですが、多くの保護者が「あかね園のために少しでも役に立ちたい」という思いや、親同士の交流を求めて参加しています。しかし、保護者の高齢化や若い世代の考え方の変化などで参加者は減少傾向です。

今後のボランティア活動は、親達の現状に合った活動、時代に合った活動を模索する必要を感じています。保護者が参加しやすい形や活動内容を見直すなど、役員会での話し合いが続いています。

それでも、「私達のあかね園は私達保護者で支える」という気持ちは、これからも変わらぬ思いです。

(保護者会会長 原田)



【各曜日の手作り品】

【移行：一泊旅行（11月15～16日）】

今回の取り組みの目玉は、一日目の完全グループ別行動です。利用者・職員が5グループに分かれ、朝の新習志野駅を出発。宿泊先である館山のホテル宴会場に18時集合を目指し、登山、水族館、ローカル列車の旅、神奈川県を回ってフェリーで館山へ、と利用者自らが考えた行程を進めました。全員無事到着し宴会にて報告会、二日目は事業全体で体験型プログラムを満喫し、帰って来ました。



【自立&移行：成人を祝う会（1月18日）】

今年は自立と移行の利用者10名が新成人となりました。様々な年齢の利用者がそれぞれ会の中で役割を担い、あかね園全体でお祝いをするをテーマに開催しましたが、新成人から保護者への手紙、保護者からの言葉ではお互いに涙する場面も見られ参加者全員、感動の内に会を終えることができました。



＜平成30年度 下半期の園の動き＞

【全事業：忘年会（12月28日）】

ホテルスプリングス幕張を会場に開催し、利用者・保護者・職員合わせて138名が参加しました。第一部でコース料理を楽しみ、第二部ではホテル内で会場を変えてゲーム大会を行ない、一年をクイズ形式で振り返って非常に盛り上がる時間となりました。



【継続B&自立：太巻き祭りすし作り体験

（2月15日）

今回も、千葉伝統郷土料理研究会より13名の講師の方をお招きし、21名の利用者が参加して「かたつむり」「桜の木」「梅の花」の3種を作りました。当日の給食で提供され、皆さんその美しさと美味しさに笑顔がこぼれていました。



あかねの集い

第170号
平成31年 4月30日
発行者
社会福祉法人あひるの会 あかね園
〒275-0024
千葉県習志野市茜浜3-4-5
TEL 047-452-2715
<http://www.akaneen.com/>



あかね園 職員採用の取り組みについて

広報担当では、これまであかね園を利用して頂く方（利用者）の募集を中心に宣伝活動を行なってきましたが、近年の福祉業界で働く人材（職員）の確保は大変難しく、採用活動の割合が大きくなりました。

現在の学卒者の就職状況では景気の回復や人口減少の要因もあり、学生優位の就職活動とされています。学生の85%は一般企業を希望し、福祉関係を希望就職先とする学生は全体の2%未満という調査結果も発表されており、業界内では“一人当たりの採用コストが百万円”とも言われる時代です。

そんな危機的状況の中、施設長からは「採用活動は職員全体の使命」と位置付けた上で、広報担当を「人材確保チーム」の中心とし、これまでよりも多くのコストを投入し、インターネット、SNSの活用や、あかね園に研修に来る学生のプログラムを学生の「見たい、知りたい」といった内容に変更。実際の施設案内も年齢の近い若手職員が担う等、以前のように“強気に待つ”のではなく、こちらから“呼び掛ける戦略”に大きく転換しました。

結果、千葉県全体での就職説明会で一開催あたり7～40名の参加と言われている中で、2019年度あかね園説明会では7名、新卒以外の求人希望も含めると20名以上の応募を頂きました。しかし、良い人材と巡り会い、内定を出したとしても、近年での内定辞退率は5割以上とも言われています。時期はまだ8月。採用活動の山場はこれからです。

内定を出した後、新年度スタートまでの約半年間は定期的な連絡や研修会の開催、会議への出席、懇親会等を通じて、あかね園の事を知って頂き、採用者との親睦を深めつつ、新年度のスタートに向け、少しでも不安を解消することが採用側には求められます。

（結局、複数の方から内定を辞退されてしまいましたが、）新年度には有望な2名の若手職員と2名の非常勤職員が入职しています。

私が入職した17年前。就職フェアの会場であかね園のブースには1日で約200名の学生が並んだ時代です。あの頃に比べると20分の1程度の応募ですが、それだけ福祉の仕事の魅力がなくなったわけではありません。2020年度の人材確保も利用者の為、良い職員を確保出来るように職員一丸となって全力を尽くしていこうと思っております。

(担当：青木) 【福祉人材フェアに参加】



＜2019年度 新職員紹介＞



就労継続支援B型事業に配属になりました伊藤樹（たつき）です。新人なのでまだまだ未熟な部分が多々ありますが、利用者の方々にも認めていただけるよう日々しっかりと学び、成長していきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。



自立訓練事業に配属になりました加藤千絵です。前職は身体に障害のある方の支援を行なっていました。明るく前向きに、一人ひとりの目標に合わせた支援を行ない、様々な経験を通して利用者の皆さんと一緒に成長できるように頑張りたいと思っております。